



①生産ラインが並ぶ工場内 ②ステンレス管が自動で接合される様子 ③モリ工業の強みを語る松本常務 ④生産ラインで造管機を操作する従業員 ⑤自動制御されているステンレス管用立体倉庫

かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

作

8

創

ステンレス管の製造で 社会への貢献を果たす モリ工業株式会社

堺市で昭和4年に自転車の前輪を支える前ホークと呼ばれる部品を製造したのが始まりというモリ工業。その後、「ステンレスの将来性に着目、前ホーク製造で培った溶接技術を生かし、ステンレス管の業界にも新規進出し、ステンレスを中心に事業を拡大してきました」と松本秀彦常務取締役は語ります。

河内長野に工場を移転したのは昭和36年。当時は千代田駅周辺といっても、田んぼや畑が広がるのどかな景色だったとのこと。

モリ工業というステンレス物干竿の「きらきらボール」を

思い出す人も多いかもしれませんが、家庭用品関係は全体の2%程度で、売り上げの多くは、自動車用、建材用、機械用などのステンレス管や銅管が占めています。日本全体のステンレス鋼の生産量は年間約300万トン、そのうちモリ工業はパイプや形鋼などで約4万5000トンを生産。「当社は直径の細いパイプを主に生産しているので、生産量の延べ長さでは日本のトップです」と松本常務は胸を張ります。

競合他社も数多いステンレス管の業界でモリ工業の強みは、生産設備を自社で設計・製作できること。最新鋭の工作機械や金型製作設備などを備えることで、様々な顧客要望に対応でき、さらに現場で働く従業員

の工夫と改善が納期の短縮にも大きく貢献。品質・価格が同じなら、納期の早さで他社との差別化を図っています。自社での設計・製作を可



モリ工業株式会社

1929年創業、1949年株式会社に變更
ステンレス管を中心に製造を手掛け、
熱交換器、物干竿などの加工品のほか、
丸棒や形鋼などの開発にも取り組む
組む日本屈指のステンレスメーカー。
楠町東 1615 ☎ 54-1121 (代)
<http://www.mory.co.jp/>

能にしているのが、研究・開発部門に人材と研究費を惜しみなく投入する姿勢で、全社員の10%がこの部門に所属していることがそれを証明しています。

これからもステンレス管などの事業を通して企業価値を高めること、それは「モリ工業はすばらしい会社だね」と皆さんに思われることです」と松本常務。常に前進あるのみというその言葉からは、変化の激しい時代を生き抜く柔軟さと強さが感じられました。

